

2010MHC 登山講習 霞沢岳(2646m)登山 報告

8月7日 AM7:00 松本から車に乗り合わせて出発。AM8:00 総勢17名が沢渡に集合。全員ジャンボタクシー2台に乗り換え、上高地へ向う。天候は晴れ、大正池畔に漂う薄霧の上空に、穂高岳の荘厳な姿を仰ぐ。AM9:00 準備を整え、バスターミナルを出発。梓川左岸の林道を進み、小一時間で明神に到着。ここから5分程で支流に架かる小橋を渡り、分岐から右手へ折れて、徳本峠へ向う。



出発前河童橋袂で記念撮影



ヤマアジサイ



カニコウモリ



明神岳を背景に溪流沿いに行く

ヤマアジサイが咲く林道を1時間程歩くと、徐々に急坂となり、山腹をジグザグに登ながら高度を上げる。道脇には、サンカヨウが青い実をつけ、カニコウモリの細い茎に白花が咲いている。PM12:40 徳本峠に建つ、改築した徳本小屋に到着する。ひと息ついて峠に立つと、西方に明神、穂高岳の屹立した岩峰群が、午後の陽を浴びてそそり立っている。昔、同じ場所でウェストンも眺めたであろう景色に想いを馳せ、感慨を深くする。



改築した徳本小屋



徳本峠からの明神、穂高岳の峰々 八ヶ岳をシルエットにして朝陽が昇る



8月8日東の空を薄紅色に染めて、朝陽が昇る。AM6:05、16名が霞沢岳山頂を目指して出発。雲が湧き始め、近くの山々が見え隠れしている。急坂をジグザグに登り、1時間程でジャンクションピークに到着。ここから林の中の長いゆるやかな山稜線を2時間程下り続け、湿地帯を通り過ると最低鞍部に出る。この鞍部から、東側がガレ落ちた狭稜線を横切ると、荒れた急斜面の登りが続く。斜面には、クルマユリ、アキノキリンソウ、ハクサンフウロなどの花々が咲き、私達を励ましてくれる。



林の中の急坂を登る



キノガサソウ



カラマツソウ



道端に花咲く荒れた急斜面の登りが続く



ガレた岩場の急斜面を登る



K1 ピークから望む K2 と霞沢岳(左)



K1 から K2 に向う狭稜線



K1 を眼下に K2 の狭稜線を行く



霞沢岳頂上直下を登る



霞沢岳山頂 2646m 見事登頂

ガレた岩場から、斜度 50~60° とも思える這松帯の急斜面を 100m 以上も、真っ直ぐに登り続け、岩道を這うように登り切ると、AM10:00 ようやく K1 ピークに到達する。ここから 14 名が山頂目指して狭い岩稜線を進む。20 分程で K2 ピークを通過して、頂上直下のお花畑の東斜面をトラバース気味に廻り、岩場を登りきると、AM10:50 霞沢岳山頂に到達する。「おめでとう！」目指した山頂は、畳十畳程の広さしかない。全員が居場所を陣取って昼食を摂っていると、雲間から穂高岳全貌がその姿を現し、一瞬の喜びに浸る。



山頂からの穂高岳連峰



ハクサンイチゲ



ハクサンフウロ



山頂からの前穂高岳と常念岳



K1 から望む K2 と霞沢岳(左)2646m

AM11:30、下山を開始、K1 ピークで待機していた 2 名と合流して 16 名となり、急な斜面を慎重に降下し、往路と同じ登山道を引き返し、ジャンクションピークを経て、PM3:45 徳本小屋に到着。支配人にお礼と再会を約して、PM4:00 急ぎ足で下山を開始する。PM5:30 明神、PM6:30 上高地到着。待っていたジャンボタクシー 2 台に乗り込み、PM7:00 沢渡、車に乗り合わせ PM8:00 過ぎ、松本で最終解散とした。

「観光客で賑わう上高地、見上げる穂高岳と対峙して聳える霞沢岳。そこは、昔ながらの山小屋のぬくもりと、険しい山路を今に残す、手ごわい山と痛感させられた」登山だった。

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則